ンドの有機質肥料の製品化を目指します。

生ごみリサイクルに参加しませんか

生ごみリサイクルには、自治会や近所同士など任意の5世帯以上が集まれば、参加することができます。そして回収ステーションを決め毎週1回、金曜日に回収を行います。回収に使用するのは抗酸化溶液※を配合した専用のバケツで、生ごみを1週間ほど保存しておくことができます。参加する世帯には、最寄りの販売店でこのバケツを購入していただきます。バケツの費用は2千625円(消費税含む)ですが、生ごみ処理機器設置費補助金制度により購入費の3分の2にあたる1千700円を市が補助しますので、925円の負担で購入することができます。

■抗酸化溶液配合バケツ※

中に入れる生ごみの酸化(腐敗)を防ぐため、発酵型微生物を培養して作られる特殊な酵素を練り込んだ樹脂で作られたバケツです。害虫を寄せつけず、鮮度の保持にも長期間にわたり効果があるため、生ごみ容器として適しています。

「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」へ

事業を開始した4月からの3か月間で、6千460kgを資源として回収しました。下の表のとおり、回収量は毎月増えています。これまでの1回当たりの平均回収量は497kgですが、今年度は1回に1千kgの回収を目標に取り組んでいきます。

私たちの家庭から出る生ごみを資源として活かし、リサイクルすることは、ごみの減量化だけでなく地球環境の保全に貢献することになります。身近なところからごみを資源として利用し、ごみの減量とリサイクルに取り組んでみませんか。

「リサイクル都市・狭山」の実現に向け、皆さんの積極的な参加とご協力をお願いします。

■生ごみリサイクルの回収量

月(回数)	全体量	平均量
4月(4回)	1,760kg	440kg
5月(5回)	2,480kg	496kg
6月(4回)	2,220kg	555kg

生ごみリサイクル事業について、説明会を行います。詳しく知りたいグループはぜひご連絡ください。

●問い合わせ生ごみ資源リサイクル推進チームへ内線3631

◆みんなで生ごみリサイクルしませんか◆

毎日の生活が快適になりました

鍬(くわ)ゆかりさん
(水野在住)

生ごみリサイクルを始めてから、ごみの量が減りましたし、台所が生ごみ臭くなくなりました。私は専用バケツと普通のバケツに、同じように生ごみを入れて比べてみました。普通のバケツに入れたごみは、何日もたつとかびが生えてしまいましたが、専用バケツのごみは匂いもほとんどなく、安心して回収に出せます。

また、この事業に参加して、私も子どもも生ごみリサイクルをしていることを誇りに思えるようになりました。そして、自分の出しているごみに関心を持つようになって、食事の準備をするときにも、食材の買いすぎや作りすぎに気をつけるようになりました。思わぬところに効果が出て、何だか得した気分です。

自治会のコミュニケーションにも役立っています

齋藤正(ただし)さん
(若葉台自治会長)

若葉台自治会では幹事会で「生ごみ10%減量」を決定し、リサイクル運動を積極的に展開しています。その方法の一つが『抗酸化溶液配合バケツ』を利用した生ごみのリサイクルです。自治会ではこれまでも説明会を実施して、現在はこのバケツを75世帯が利用していますが、今後は120世帯を目標にしており、自治会の広報でも各家庭に周知し浸透を図っています。バケツを利用している人たちは、その効果を予想以上に高く評価していますし、回収後のバケツの引き取りも協力し合い、自治会のコミュニケーションにも役立っています。また、ごみを減らすことで、市の処理費用や施設の負担を軽減することに役立っているという声も聞いています。

「捨てる暮らし」から『活かす暮らし』へ

生ごみの正しい排出にご協力ください

生ごみを上手にリサイクルするためのポイントは、分別の方法にあります。

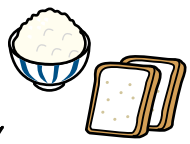
注意!!

その1 水切りを忘れずに!!
その2 腐ったものは入れない

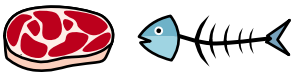
○バケツに入れていいもの○

大きなものは小さく切る

大きな野菜は、小さく切って入れましょう。生の肉や魚は入れられません。ただし、加熱したものは入れられます。カニ・エビの殻は、砕いてから入れてください。

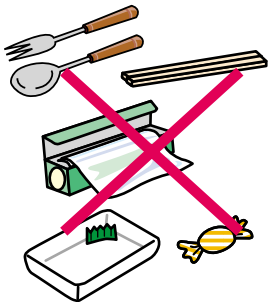


生は入れない



殻を砕いて入れる

×バケツに入れてはいけないもの×



弁当の中のバランやアルミカップ、しょうゆの蓋、ラップの切れ端、焼きとりの竹串などは、残飯と一緒にバケツに入ってしまうことがあります。十分気を付けて、入れないようにしましょう。

生ごみリサイクルの流れ

◀毎週金曜日、「生ごみステーション」にバケツごと排出します。バケツは回収後に各自持ち帰ってください。

集合住宅などで大型バケツを設置できる場合は、回収日当日の朝、バケツに入れた生ごみをそこに排出します。▶

専用の運搬車両で午前８時から各ステーションを回り、回収します。回収作業に立ち会う必要はありません。

狭山市専用の大型生ごみ処理機で高速発酵させます。

約24時間でパウダー状の１次処理物に生成されます。

肥料メーカーで２次処理を行い、狭山ブランド肥料の製品化を目指します。(写真はイメージ)